

## 【市長コメント】

### 《 1. 令和元年12月補正予算（案） 》

令和元年度の12月補正予算について説明します。

一般会計は、補正額が34億9,500万円で、補正後の合計額が1,893億7,400万円となり、前年比3.1%の増加となっています。

まず、歳出として、大きく4項目あります。

1点目の人件費の調整について、退職手当については、当初は令和2年3月末に64人退職する見込みでしたが、今は106人程度を見込んでおり、退職金が増額するので、6億7,700万円増加します。育休等による支給実績に伴う手当の調整等については、当初は育休取得者として30人程度を見込んでいましたが、60人程度になりそうです。今回は、育休取得者が見込みよりも増えて、給与の受給者が減るため、年間で6億5,300万円の減額として計上しています。ちなみに、育休は8カ月以降で3歳になるまでとなっており、そこまで無給で休んで、それから復職できる仕組みになっています。

2点目の扶助費の追加計上について、私立保育所等の給付費については、当初は利用者として14万867人を見込んでいましたが、今は14万5,287人を見込んでおり、5,000人程度増えそうです。また、単価の改定について、これは人事院勧告を見て上げる予定ですが、保育士の人数を増やすことで6億円程度、処遇改善等で6億円程度の増額で、全部で12億3,600万円増加します。障がい者の介護・訓練等の給付費については、当初は8万7,000人の利用者を見込んでいましたが、今は8万9,000人を見込んでおり、2,000人程度増えて、7億4,000万円の増加となります。

3点目の国庫負担金等の清算返還金について、これは決算後に精算して国に余りを返還するものですが、平成30年度は、子どものための教育・保育給付費負担金や生活保護費負担金等で、3億8,000万円あります。

4点目のその他の追加計上について、企業立地促進助成金は、企業が立地したときに設備投資や雇用の額に応じて補助金を出すもので、予定より増えそうです。ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社ほか全部で8社増える予定で、これが3億7,300万円の増加です。ちなみに、債務負担行為でも企業立地促進助成金を挙げていますが、これは今年度に加えて来年度も出そうなものについて計上しています。介護保険特別会計繰出金については、消費税率の改定に伴い、介護保険の保険料等を軽減する措置がとられています。これにより、介護保険特別会計が赤字になりますが、それを一般会計で補填する仕組みになっており、繰出金として3億円を計上しています。滝尾中部地区住環境整備事業については、国から追加の配分がありました。それが9,450万8,000円で、予算が増えると事業が進められるので、そのまま計上しています。

次に、歳入として、国庫支出金が17億9,800万円、地方債が6,200万円、繰越金が16億3,300万円です。先ほどの歳出のなかで市が措置しなければならない予算を繰越金としています。

また、債務負担行為として、5つあげています。

1点目は、大分市の大洲総合体育館管理業務委託料です。大分市も資金の3分の1を負担して、昭和電工ドーム大分の隣に昭和電工武道スポーツセンターが完成しましたが、その資金負担を決めたときに、大分県立総合体育館を大分市に移管することを一緒に決めました。実際に令和2年4月1日から移管する予定で、それに伴って管理業務の費用が発生するため、新年度から3年間分で1億9,200万円を計上する予定です。委託管理者は、入札と管理委員会の決定委員会の審査により決定し、今の管理者がそのまま引き継ぐことになりました。

2点目は、駄原総合運動公園のトレーニング施設の整備事業ですが、ここは、ラグビーワールドカップのときにウルグアイ、フィジー、フランスが事前キャンプを行いました。来年度も7人制ラグビーのフィジー代表チームが事前キャンプすることが決まっています。それに向けて、トレーニング施設の整備をすることにして、来年度の事業ではありませんが、それに向けて契約業務等が発生するため、1億5,000万円を計上しています。フィジー代表チームの他にもトップチームが来ることも考えられますが、それ以外の期間は市民の皆さんに使っていただければと思っています。トレーニングルームには、バーベルやウエイトトレーニングの器具、更衣室やシャワーなどがあります。

3点目は、新環境センター整備事業です。これは、現在6市で建設を予定している廃棄物の焼却場・処理場ですが、来年度から事業が本格化するため、測量や土地の鑑定、用地取得や環境影響評価を委託します。28億円を計上していますが、これは来年度から4年度まで行う事業について、債務負担行為を設定するということです。

4点目は、企業立地促進助成金です。令和2年度から3年度までに発生すると思われる設備投資に対する企業立地促進助成金について、全部で3億円を設定しています。

5点目は、グリーンスローモビリティの実験運行事業です。昨年度から公道も一部走らせており、今年度は、大分駅の南側から南蛮 BVNGO 交流館までのルートと、大分市美術館と大分県立美術館の間を結ぶ大分きゃんバスのルートで、実験運行を行いました。今回は1,500万円の債務負担行為を設定することにしてありますが、eCOM-10を購入するので、新年度はそれを使った事業になると思います。今度は、大分川の緊急道路のようなところを走らせながら、さらに実験運行を郊外の方に展開しようとしています。たとえば、野津原地区で走らせて、路上で手を挙げた人に乗ってもらうことを考えています。これを令和2年4月1日から令和3年3月31日まで実施します。

それから、特別会計は、6つの特別会計については、30年度の決算が確定したため、それに伴って繰越金の調整や国庫負担金の返還等に7億400万円を使います。水道事業会計・公共下水道事業会計については、排水管の交換工事等を4月1日から行うため、債務負担行為を設定することにしてあります。

結果として、一般会計と特別会計を合わせた補正総額が41億9,900万円となりますが、これを現計予算に足すと、総合計が3,311億1,000万円となり、前年比で3.1%の増加となっています。一般会計も総合計も3.1%の増加ということです。

## 《2. 令和2年4月実施機構改革(案)》

まずは、ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピック推進局ですが、ラグビーワールドカップが終わったので、東京オリンピック・パラリンピック推進局という名前に変更します。

男女共同参画に関する事務は、これまでは文化国際課の男女共同参画センターで行ってました。男女共同参画を文化活動として捉えて推進しようとしていたましたが、やはり男女共同参画というのは、文化活動だけではなく、さまざまな市民活動の支援や安全などに関係しているので、市民部へ移管します。なお、部をまたいで移管する場合は条例の改正が必要です。

また、国際課を設置します。現在、文化国際課で文化業務と国際化業務の両方を所管していて、国際化業務については国際化推進室を設置していますが、その業務が非常に増えてきています。友好都市締結40周年の武漢市については、来年の3月にお客さまをお迎えする予定ですし、去年はアベイロ市との姉妹都市締結40周年でした。また、ラグビーワールドカップに関連する事業では、外国からの子どもたちの受け入れについて、国際化推進室が取り組んできました。そこで、国際化推進室を課として独立させて、国際課を設

置し、文化国際課を文化振興課に変更します。

それから、市民協働推進課の中に生活安全推進室と市民活動・消費生活センターを設置していますが、ここも業務が非常に増えています。そこで、市民協働推進課から独立させて、あわせて男女共同参画センターを分掌することにし、生活安全・男女共同参画課とします。そこに市民活動・消費生活センターと男女共同参画センターを置き、たとえば、前者は特殊詐欺や振込め詐欺を防止する業務、後者は女性がより活躍できる社会を実現する業務を行うことにします。

また、現在、河川課には庶務港湾担当班があり、港湾の業務も河川課で行っています。港湾の業務として、11月には「みなとまつり」を行いましたし、これから重要港湾として大分港をどのように振興していくかというのは、ますます重要な業務になります。そこで、河川課の名前を河川・みなと振興課に変更して、庶務みなと振興担当班を置き、大分の港湾振興を担当していることが分かるようにします。

最後に、大分川ダムがもうすぐ完成します。そこで、大分川ダム対策室を廃止して、広域連携推進室を設置します。また、広域連携の7市1町だけではなくて、さまざまな形で市町村が連携して取り組まなければならない課題が増えています。先日、知事と市長会、それから町村会との意見交換をしましたが、やはり災害の問題をはじめとしてさまざまな問題があります。それから、6市で連携している新環境センター整備事業のような業務もありますので、広域連携推進室を設置することにしました。

### 《3. 高城駅自由通路のバリアフリー化について》

それから、高城駅の自由通路のバリアフリー化です。鶴崎駅のバリアフリー化が終了して、次は高城駅自由通路のバリアフリー化を進める予定です。1億5,000万円以上の契約を締結するときは、議会の承認が必要になるため、第4回定例会に契約についての議案を提出します。今回は、6億2,158万8,000円の契約ということで、契約したらすぐに事業に取りかかって、令和4年3月31日までに完成させたいと思っています。

資料の平面図を見てください。大分市が管理している通路を青色で示していますが、これを撤去して、橙色で示しているエレベーター付きの通路をつくります。これは大分市が管理するもので、自由通路と言います。また、JRが管理している通路をピンク色で示していますが、これも撤去して、緑色で示しているエレベーター付きの通路をつくります。これはJRが管理するものです。この工事はバリアフリー化を図るためのもので、これまで車椅子の方が通れなかったところが通れるようになります。

なお、JR構内の施設で工事をするときは、JRに委託することになっており、今回もJRから見積もりを取り寄せて精査し、この金額で委託することを提案する予定です。

### 《4. 線路敷ボードウォーク広場が完成しました》

線路敷ボードウォーク広場が完成しました。JRの日豊本線の線路があったところに広場を整備しました。距離が440メートル、面積が1万平方メートルで、エントランスがゲートになっていて、線路を模した通路やバスケットボールコートなどを設置しています。芝生広場には展望デッキがありますが、そのすぐ先が南蛮BVNGO交流館や大友館跡の庭園なので、そこが見渡せるようなつくりになっています。12月7日に竣工の式典と記念の植樹をする予定です。西側のエントランスで10時から式典を行い、山桜など100本を植えることにしています。

### 《5. 成年年齢引き下げ後の成人記念集会について》

成年年齢が令和4年度から18歳に引き下げられます。そこで、成人式の対象年齢につ

いて、大分市の方針を決めたのでお知らせします。

名称を「20歳のつどい」として、従来通り20歳の方を対象に実施します。これは、18歳のときは、進学や就職など進路選択の重要な時期であり、忙しい時期であることに加えて、これまで20歳の方を対象にしていたことが定着しており、市外に出ている人も20歳になったときに帰ってきて、友人と再会するいい機会になっているということもあり、やはり令和4年度以降も20歳の方を対象にすると決めました。また、本市の成人記念集会実行委員会において、9名の方に参加していただきましたが、やはり20歳がいいということになりました。今までは成人記念集会と呼んでいましたが、成人自体は18歳になるので「20歳のつどい」という名称で実施します。

従来通り、1月の第2月曜日の前日、成人の日の前日の日曜日に行うことにしています。これは教育委員会での議論を踏まえて決定しました。

なお、他の自治体の状況について、方針が決まっている67自治体のうち61自治体が20歳を対象にするとしています。また、すでに方針を決定している9中核市については、全て20歳を対象にすると決めています。

## 【質疑応答】

### 《1. 令和元年12月補正予算（案）》

**記者** 債務負担行為の中の大洲総合体育館管理業務委託料について、大分県立総合体育館は大分市の管理になるということですか。

**市長** はい。大分市の管理になります。

**記者** 次に、新環境センター整備事業について、地元の合意は得られましたが、一部の反対意見もあって、計画の見直しを求めている方もいらっしゃると思います。改めて市長の方針を教えてください。

**市長** ご心配の方がいらっしゃいますので、水が汚染される可能性や交通量の増加など、ご懸念の一つ一つについて、丁寧にご説明をさせていただきますし、検証をしていきたいと思っております。環境影響評価については、法定ということもありますが、それをしっかり進めていくことが懸念を取り除く材料になると思っております。

**記者** 補正予算で数字が出てきている段階ですが、計画についての基本的なコンセンサスはとれているのでしょうか。

**市長** はい。コンセンサスはとれていると思っていただいて結構です。

**記者** 6市のうちの他の市の負担はどのような形になりますか。

**市長** それぞれのごみの排出量に応じて負担をしてもらうことになっています。

**記者** ほかの市でも、大分市のような形で債務負担行為を出していく形になりますか。

**市長** はい。6市とも債務負担行為としてあげていきます。

**記者** それは、タイミングを合わせて実施していくということですか。

**市長** そうです。

**記者** 新環境センター整備事業について、まだ納得できていない方が一部にいらっしゃる中で、具体的に市として説明の場を設けることを考えているのでしょうか。

**市長** はい。これから環境影響評価などの具体的なアウトプットが出て来ますので、それが出た段階で、自治会に説明します。今後、何度も説明の機会を設けますし、説明して欲しいと言っていたら、その都度、担当の職員が出向いて説明するなど、さまざまな機会があると思っております。

**記者** グリーンスローモビリティについて、野津原地区という名前が出ましたが、すでに具体的な計画があるのでしょうか。

**市長** 具体的な計画はこれからです。今度は、実験運行を郊外の方に展開しようとしていますが、ちょうど野津原に道の駅のつはるが完成しますので、そこまで足を延ばしてみたらどうかということです。そこまで延ばすなら、バス停でバスに乗っていただくのではなくて、手を挙げたところで乗っていただくのはいかがでしょうかというご説明しました。それを令和2年4月1日にスタートできるように準備をしていきたいと思っています。

**記者** 現段階では市長の頭の中ということでしょうか。

**市長** もちろん、担当の職員とはいろいろ議論しているところです。

### 《3. 高城駅自由通路のバリアフリー化について》

**記者** 高城駅自由通路のバリアフリー化について、他の駅でも実施する予定でしょうか。

**市長** はい。1日3,000人以上の利用者がいる駅はバリアフリー化することになっているので、次は大在駅という順番になると思います。

**記者** では、条件を満たす駅について、順次取り組むということでしょうか。

**市長** はい。逆に3,000人以下のところをどうするかは今後の課題だと思います。

### 《5. 成年年齢引き下げ後の成人記念集会について》

**記者** 「20歳のつどい」は成人式ではないということでしょうか。別の会になるのか、それとも従来通りの会になるのか、位置づけを教えてください。

**市長** 成人をお祝いする点では同じですが、それを成人になってすぐやるのではなくて、20歳まで待つて行うということです。

**記者** 成人年齢の18歳の方に対しては、メッセージを出したり、18歳の成人式を実施したりすることは考えていますか。

**市長** 今のところは考えていません。

### 《その他》

**記者** 市道の交差点にガードパイプや防護柵を設置するというので進んでいると思いますが、現在の進捗状況を教えてください。

**市長** すぐにお答えできないので、改めて担当の道路維持課に聞いてください。

以上で記者会見を終了します。

(※出席者の発言内容については、言い違いや重複した言葉づかいなどを整理して掲載しています)